

ふかめる

分かる快感！

Z会ナビ

算数 理科 社会

歌舞伎と人形浄瑠璃の大人気作家とは？

(大学入試センター試験 2017年 日本史)

お題

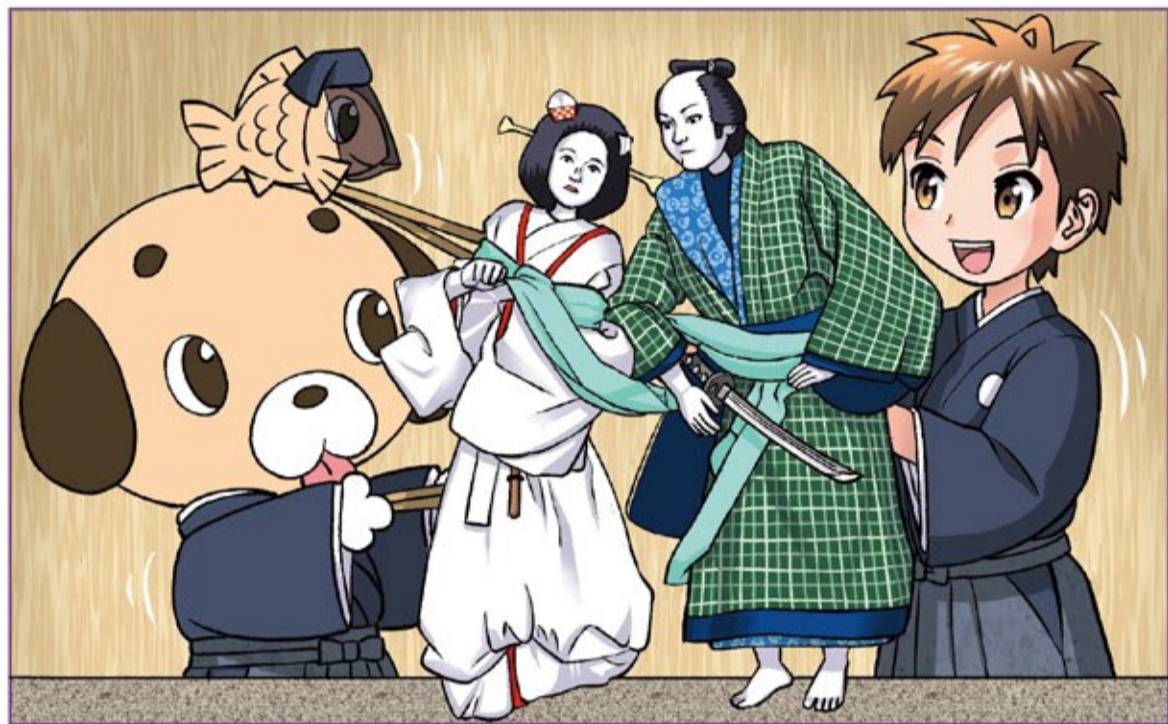
スクラッチを使ったプログラミング通信講座、Z会にて開講中！

Z会 スクラッチ 検索

次の文章は、江戸時代のある人物を紹介したものである。その人物の名前を答えなさい。

本名を杉森信盛といい、1653年生まれといわれているが、幼少期のことはあまりよくわかっていない。父の杉森信義は越前吉江藩(現在の福井県鯖江市)に仕える武士であったが、のちに越前を離れた。信盛は10代後半の頃には京都に住み、天皇のもとで働く貴族に仕えていたことがわかっている。

やがて信盛は武士の身分を捨て、宇治加賀掾一座のもとで歌舞伎や人形浄瑠璃の作者となり、人形浄瑠璃の竹本義太夫や歌舞伎の坂田藤十郎に作品を提供するようになった。代表作として、世話物では「曾根崎心中」「心中天網島」、時代物では「国性爺合戦」などがある。



イラスト・瑞木匠

人形浄瑠璃や歌舞伎はユネスコの無形文化遺産にも登録されている、日本の古典芸能です。歌舞伎役者がテレビドラマに出ていることを知っている人もいるかもしれませんね。今回は、人形浄瑠璃や歌舞伎が江戸時代の町人にとってどのような存在だったのか、考えてみましょう。

歌舞伎・人形浄瑠璃とはどんなもの？

人物を特定するために、情報が多い最後の段落に注目してみましょう。この人物は「歌舞伎や人形浄瑠璃の作者」だったと書かれています。

歌舞伎といえば、大きな動きのあと特徴的なポーズで静止する「見え」や、特徴的な化粧の「隈取り」などを思い浮かべる人もいるでしょう。また、女性役も男性が演じることを知っている人もいるかもしれませんね。歌舞伎は「傾く」を語源とするさ、れ、「かぶき者」と呼ばれた派手なかつこうをする人や変わったしぐさをする人の様子を取り入れた「かぶき踊り」がもとといわれています。当時は女性が踊る「女歌舞伎」で、琉球(現在の沖縄県)からもたらされた楽器をもとに作られた新しい楽器である三味線を使いながら、京都・江戸・大坂(現在の大阪)で大流行しました。しかし、風俗が乱れるなどの理由により女歌舞伎は禁止となり、やがて男性が演じる野郎歌舞伎へと形を変えていきました。そのなかで演じられる内容も、しっかりとした物語となり、演劇の要素が強いものに

なっていました。そして江戸時代中ごろには、江戸の市川團十郎、京都の坂田藤十郎、芳沢あやめなどの役者が現れ、人気を博しました。

浄瑠璃は、琵琶などの伴奏をつけて物語を語る芸能です。牛若丸と浄瑠璃姫の恋物語の演目が有名だったため「浄瑠璃」と言われるようになりました。さらに人形芝居がついたものが現れ、浄瑠璃の中でもとくに「人形浄瑠璃」と呼ばれ、発展しました。現在では人形浄瑠璃専門の劇場の文楽座の名前から「文楽」といわれることもあります。現在、文楽として演じられているのは、義太夫節と呼ばれるものです。竹本義太夫が創始した義太夫節は、語りを行う太夫、三味線、人形遣いの3者の協働で演じられます。

歌舞伎と人形浄瑠璃が大きく発展した江戸時代中ごろに人気を博したのが、今回の答えである近松門左衛門(本名杉森信盛)の作品でした。

どんな活躍をした？

近松門左衛門は京都に住むようになったあと、人形浄瑠璃の太夫として人気を博していた宇治加賀掾に作品を提供するようになりました。加賀掾の弟子の竹本義太夫が大坂に竹本座を開き、そこで近松門左衛門の作品を演じたところ評判となり、以降近松門左衛門は竹本座で作品を作るようになったのです。

人形浄瑠璃には、一般の町人を主人公にした「世話物」や武士や貴族を主人公として歴史上の事件などを題材にした「時代物」と呼ばれるジャンルがあります。世話物では、町人の日常生活の中で起きるさまざまな事件を題材に、人々の

恋愛や葛藤などが描かれました。世話物には現代のワイドショーのような役割もあり、事件後すぐに演じられることもあったようです。近松門左衛門の作品にも「曾根崎心中」「心中天網島」など、心中事件を題材にした傑作があります。そして、近松門左衛門の当時の最大のヒット作が、時代物の「国性爺合戦」です。中国の役人の子で日本で生まれた男(実在の鄭成功がモデル)が母国を復興すべく、中国大陸に渡って活躍する、という物語です。竹本座で演じられたこの作品は、初演から17か月連続で演じられました。

このようなヒット作もあり、人形浄瑠璃の人気は一気に高まり、「国性爺合戦」などの人形浄瑠璃の人気作品が歌舞伎でも上演されるようになりました。また、近松門左衛門は歌舞伎の作品も書いていたことから、人形浄瑠璃に歌舞伎役者の芸を取り入れることもあったそうです。こうして、人形浄瑠璃と歌舞伎はともに江戸時代の町人の娯楽の中心として、大きく花開いていったのです。(Z会・河原井彩)

！ 今回の教訓

江戸時代の町人にとっては、歌舞伎や人形浄瑠璃が、現在のワイドショーやテレビドラマ、映画のような存在でした。

河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。